

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.95

令和5年
2月15日

インクル、ぐるぐる、渋～、渋～。

第2回茶話会では、インクルーシブの意味から話が始まり、神奈川県インクルーシブ教育の現状について考える機会を頂戴しました。資料を用意すると、勉強会のような雰囲気が出てしまいました。

インクルーシブは訳すと「包括」「包み込む」の意味です。しかし、現在の支援学校を含めた学校教育のあり方と照らし合わせると、「誰も排除しない」という意味と取り違えてないか、システムのネーミングとして使用していないか疑問を抱きます。2022年9月、国連は、現状の特別支援教育は障がい児を通常の教育から「分離」しているとして、日本政府にやめるよう強く要請しました。その回答として、9月13日、文部科学省永岡大臣は閣議後の記者会見で「特別支援教育を中止することは考えていない」と述べ、また、「インクルーシブ教育の推進は継続する」と発言しています。国連と日本政府とで、インクルーシブ教育へ向けた共通したプロセスも着地点も定められてなく手探り状態なのがわかります。

神奈川県インクルーシブ教育推進課が行った第1回インクルーシブ教育推進フォーラム『小・中学校における「インクルーシブな学校」づくり』（令和4年8月20日）の報告書をWEBで閲覧できるのですが、現状の課題と取り組みについてよく話し合われている内容でした。趣旨説明では、インクルーシブ教育を考えるにあたって3つの前提があると話されています。1つ目は、多様性の意味について。2つ目は、意識をインクルージョンにすることについて。3つ目は、世界共通の目標であることについて。プロセスと着地点は手探りでも、インクルーシブ教育の入口はここにあるのだと共感する内容でした。

現在の日本の教育は支援学校、支援級、通級、交流と分け「個々それぞれに合わせた教育」を行う「セグレゲーション」分離教育の意味合いが強く、また、「選ばされている状態」や「選ばざるを得ない状態」に大きな課題があります。誰も排除されず、すべての一人を尊重し、合理的配慮のもとニーズに適切に対応することが求められています。学校教育が、目の前の子どもに合わせ変化することができる柔軟な枠組みになっていくことを期待しています。

たいにい
のようす

インクルージョン（包括）



インテグレーション（統合）



セグレゲーション（分離）



エクスクルージョン（排除）



写真掲載欄のため内容を削除させていただいております。

第3回

たいにい・ぼっくす茶話会

日時：3月26日（日曜日）10:30～

資料：ライフスキルについて

場所：たいにい・ぼっくす あさひ

参加者：法人事業所を利用中

または利用していた保護者

※過去の資料が欲しい方はさしあげますのでお声かけ下さい。

3月の予定
春季長期休暇計画参照

3月 休業日

4日 5日

11日 12日

18日 19日

21日

25日 26日

